

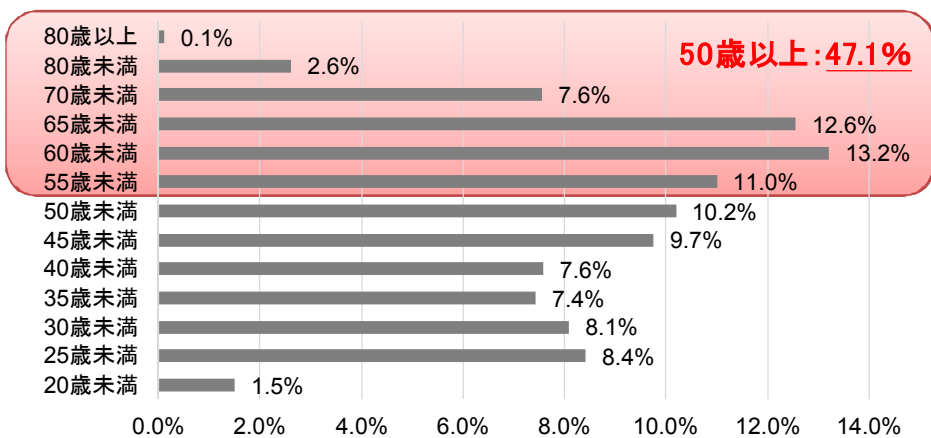
内航船員の働き方改革について

内航船員の働き方改革の必要性について①

- 人手不足による「**物流危機**」は内航海運の分野においても進行中。
- **内航船員は高齢化が著しく**、今後の事業継続に支障が生じないよう、**若年船員の確保・育成**が必要であり、「働き方改革」が進んでいる陸上職に劣らず魅力的な職業にしていくことが不可欠。

○内航船員数の年齢構成

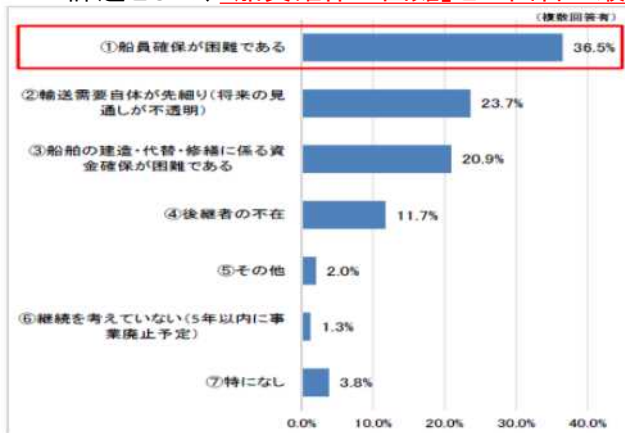
・高齢化が改善傾向にはあるものの、依然として**約半数が50歳以上**



(2017年10月現在)
○海事局調べによる。

○内航海運業を継続していく上での課題

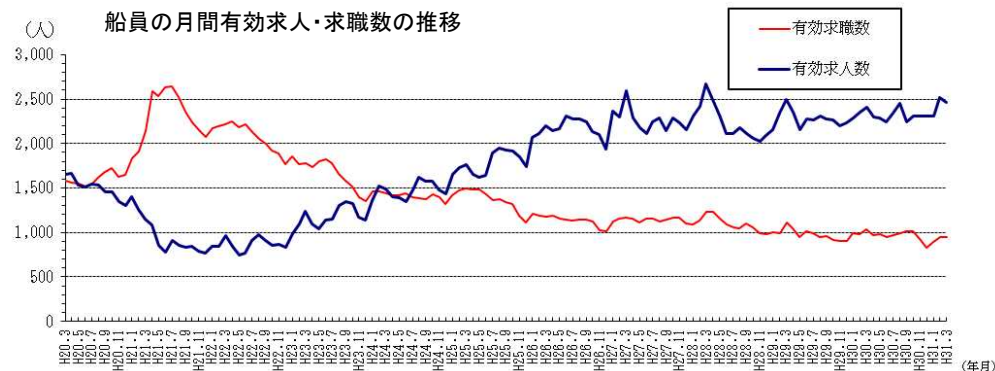
・事業継続の上での課題として、「**船員確保が困難**」との回答が**最多**(36.5%)



出典:内航海運事業者に対する経営実態調査(平成28年)

○船員の月間有効求人・求職数及び有効求人倍率の推移

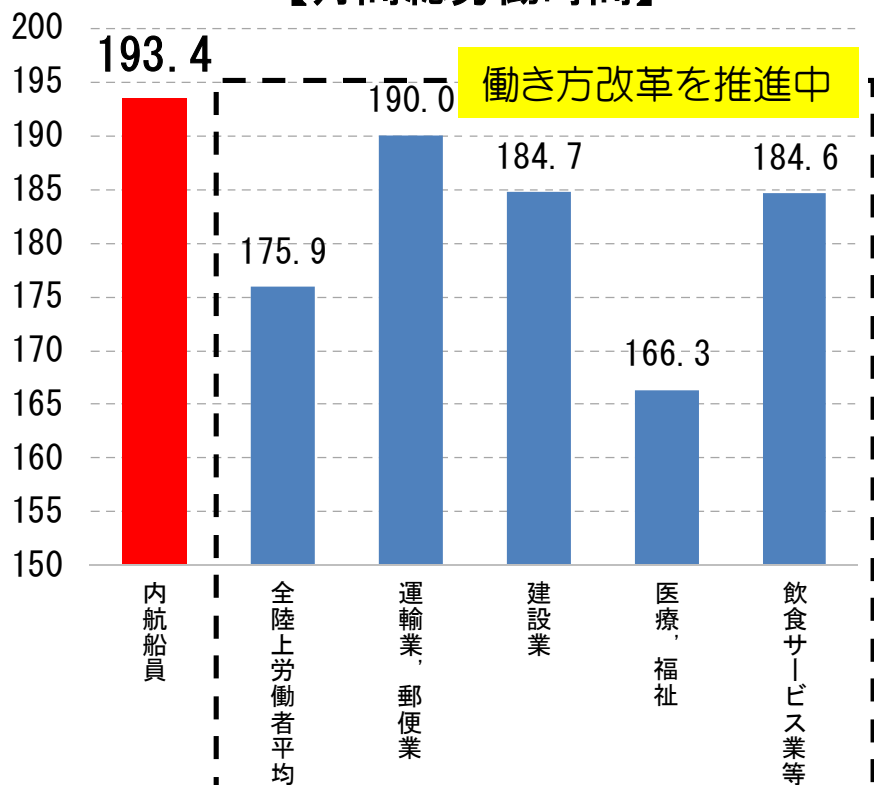
・有効求人倍率は、近年、**2倍を上回る状況**が続いている。



出典:海事局調べ

- 船員は、陸上職に比して長時間労働となっている上に、陸から離れ孤立した船上という職住一致の環境での長期間連続乗船など、厳しい就労環境下に置かれている。
- 陸上職における取組みも参考にし、労働時間の把握・管理、休暇の取得、健康の確保のあり方など、特に若者や女性の目線から求められる取組が必要。

【月間総労働時間】



○「平成29年船員労働統計」及び「毎月勤労統計調査平成29年6月分結果確報」により作成

【転職した理由（海技教育機構卒業生 回答）】



出典：海技教育機構の卒業生に対する卒業後の動向に関するアンケート調査結果(平成28年1月29日)

内航船員という職業を、働き方改革が進んでいる陸上職と比べても劣らず魅力ある職業へと変えていく必要。
交通政策審議会船員部会において、内航船員の視点に立った「働き方改革」について、検討を進めているところ。

2月20日

- 各委員からの意見表明

3月22日

- 各委員からの意見表明
- 有識者による講演①(働き方改革について)
- 今後の進め方について

4月26日

- 有識者による講演②(トラック業界の取組について)
- 働き方改革に向けた現状の整理

5月24日

- 健全な船内環境づくりについて①
 - ・メンタルヘルス
 - ・身体健康管理
 - ・供食環境の改善
 - 等

6月

- 健全な船内環境づくりについて②

7月

- 健全な船内環境づくりについて(方向性ととりまとめ)

8月以降

- 労働実態調査等の結果を踏まえ、労働条件の改善、多様な働き方への対応等をテーマに議論



内航船員の労働実態調査等を実施